

2025年3月期 通期決算説明会 主要質疑応答

次期中期経営計画のポイントを教えてください。

- 試薬事業では、これまでグローバル体制の構築を進めてきたが、次期中期経営計画では特に、米国での製造体制の起ち上げがポイントと考えている。試薬事業では、PCR 領域、次に NGS 領域を収益源に育ててきた。今後、空間解析をその次の柱に育てていきたいと考えている。空間解析の Curio 社製品を米国の施設で製造する方向で検討している。
- CDMO 事業では、再生・細胞医療・遺伝子治療に注力し、国内の遺伝子治療のニッチトップを進んでいくという方向性は変わらない。開発段階から製造プロセス開発なども支援する C'R'DMO 戦略を進めており、スタートアップ企業との協業なども進んでいるところである。最後まで支援できるプロジェクトを増やしていきたいと考えている。
- 遺伝子治療分野は、TBI-1301 をはじめ、自社プロジェクトの上市をきっかけに、創薬企業として実績を重ねていくことがポイントと考えている。次期中期経営計画で本承認取得が計画できると考えている。

試薬事業の2026年3月期地域別売上高について、米国は下期の方が大幅に伸びてきているが、どのような成長イメージなのか。中国の今後の市況環境の考え方についても教えてください。

- 米国では、Curio 社製品とそれに関連する NGS 分野の製品の売上が第3、第4四半期に伸びる見込みである。それらをいかに育てていくかがポイントとなると考えている。
- 中国では、中国企業と価格競争になる Low-end 製品は対抗できるところまで対抗しつつ、Curio 社製品や GMP 製品といった当社独自の High-end 製品をいかに拡販できるかがポイントになると考えている。今回の関税政策への対応により中国国内の製造キャパシティに余裕があるので、それを中国国内向け製品の製造に活用することを考えている。

以上

【将来の見通しに関する注意事項】

資料中の当社による現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。